

2022年9月25日 午前礼拝
「約束の王イエス」 説教者:堺希望伝道師

【引用聖句】

マタイ 1:1-2,6,16-17

- 1 アブラハムの子孫、ダビデの子孫、イエス・キリストの系図。
- 2 アブラハムにイサクが生まれ、イサクにヤコブが生まれ、ヤコブにユダとその兄弟たちが生まれ、
- 6 エッサイにダビデ王が生まれた。ダビデに、ウリヤの妻によってソロモンが生まれ、
- 16 ヤコブにマリヤの夫ヨセフが生まれた。キリストと呼ばれるイエスはこのマリヤからお生まれになった。
- 17 それで、アブラハムからダビデまでの代が全部で十四代、ダビデからバビロン移住までが十四代、バビロン移住からキリストまでが十四代になる。

【説教要約】

今日からしばらく、マタイの福音書を見ていきます。

イエス様の御生涯を記録した、福音書と呼ばれるものは聖書に4つあります。突然ですが、なぜ4つあるのでしょうか。ヨハネは、福音書の中でこのように言っています。

イエスが行われたことは、ほかにもたくさんあるが、もしそれらをいちいち書きしるすなら、世界も、書かれた書物を入れることができまい、と私は思う。

ヨハネ 21 : 25

イエス様が行なわれたことは、すべて含めるととても書ききれない程だそうです。その膨大な出来事の中から伝えなければならないことを、聖霊が4人の人を導いて書かれたのがそれぞれの福音書です。一番短いのがマルコの福音書で16章。マタイの福音書は最も長く28章あります。それは、イエス様について描かれている面が違うためです。

④ **新しい創造**

アブラハムの子孫、ダビデの子孫、イエス・キリストの系図。

マタイ 1 : 1

マタイは独特で、系図から始まっています。多くの方はこの出だしを見て読む気を削がれるのではないのでしょうか。なぜこのような始まり方をしているかといえば、旧約聖書を強く意識しているからです。

1 : 1の「系図」という言葉は、原語では「歴史の記録」という言葉です。全く同じ言葉が出てくるのが、創世記の5章です。

- 1 これはアダムの歴史の記録である。神は人を創造されたとき、神に似せて彼を造られ、
- 2 男と女とに彼らを創造された。彼らが創造された日に、神は彼らを祝福して、その名を人と呼ばれた。
- 3 アダムは、百三十年生きて、彼に似た、彼のかたちどおりの子を生んだ。彼はその子をセツと名づけた。
- 4 アダムはセツを生んで後、八百年生き、息子、娘たちを生んだ。
- 5 アダムは全部で九百三十年生きた。こうして彼は死んだ。

創世記 5 : 1-5

アダムとエバは他の動物と違い、神様から特別に造られました。「神のかたち」として造られ、神様の素晴らしさを反映して、いつまでも神様と共に生きることができる存在でした。ところが、その神様のみこころであった「善悪の知識の木の実を食べてはならない」という命に背き、自分から神様の祝福を捨ててしまったのです。

- 16 神である主は人に命じて仰せられた。「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。
- 17 しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べる時、あなたは必ず死ぬ。」

創世記 2 : 16-17

創世記 5 章には、人類初の系図が載っています。それは祝福を失い、罪と死の中で生きることとなった人の「死の記録」です。

「こうして彼は死んだ」。登場する人は、ただ一人エノクを除いてみんなこの終わり方をします。罪の世界では、その終わりは虚しい死なのです。

この、「死の記録」と同じ用語を使ってイエス様の系図は始まります。創世記では罪と死の記録でしたが、神様はイエス・キリストを通して、新しい「信仰といのちの記録」を描こうとしているのです。

②約束を果たされる神様

- 1 アブラハムの子孫、ダビデの子孫、イエス・キリストの系図。
 - 2 アブラハムにイサクが生まれ、イサクにヤコブが生まれ、ヤコブにユダとその兄弟たちが生まれ、
- 6 エッサイにダビデ王が生まれた。ダビデに、ウリヤの妻によってソロモンが生まれ、
- 16 ヤコブにマリヤの夫ヨセフが生まれた。キリストと呼ばれるイエスはこのマリヤからお生まれになった。
- 17 それで、アブラハムからダビデまでの代が全部で十四代、ダビデからバビロン移住までが十四代、バビロン移住からキリストまでが十四代になる。

マタイ 1:1-2,6,16-17

この系図がアダムからではなく、アブラハムから始まっていることと、ダビデ王が強調されていることにも理由があります。この系図は、神様の約束が果たされたことの証明なのです。

アブラハムは、旧約聖書のイスラエル民族の始まりでした。神様がアブラハムに語られた時、アブラハムは偶像の国にいて、75歳の年寄りでした。そのアブラハムを神様は呼んで、アブラハムは神様に聞き従いました。

神様がアブラハムにされた約束が、何度か出てきます。

15 それから主の使いは、再び天からアブラハムを呼んで、
16 仰せられた。「これは主の御告げである。わたしは自分にかけて誓う。あなたが、このことをなし、あなたの子、あなたのひとり子を惜しまなかったから、
17 わたしは確かにあなたを大いに祝福し、あなたの子孫を、空の星、海辺の砂のように数多く増し加えよう。そしてあなたの子孫は、その敵の門を勝ち取るであろう。
18 あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。あなたがわたしの声に聞き従ったからである。」

創世記 22 : 15 - 18

この約束によれば、アブラハムの子孫が空の星や砂浜の砂のように増やされるということ。これがイスラエル民族になりました。

もう一つは、ある一人の「子孫」によってすべての民族が祝福を受けると言うことです。この「子孫」について、神様が次に語られたのがダビデに対してです。

神様はイスラエルを国として建てられました。そのために選ばれたのがダビデ王です。ダビデは羊飼いの家の末っ子でした。羊飼いだっただビデを神様は選んで、神様の国の王とされたのでした。このダビデにも、神様は約束をされます。

11b さらに主はあなたに告げる。『主はあなたのために一つの家を造る。』
12 あなたの日数が満ち、あなたがあなたの先祖たちとともに眠るとき、わたしは、あなたの身から出る世継ぎの子を、あなたのあとに起こし、彼の王国を確立させる。
13 彼はわたしの名のために一つの家を建て、わたしはその王国の王座をとこしえまでも堅く立てる。

Ⅱサムエル 7 : 11b-13

ダビデの子孫も王となり、その王国はなくならないという約束でした。

それで、アブラハムからダビデまでの代が全部で十四代、ダビデからバビロン移住までが十四代、バビロン移住からキリストまでが十四代になる。

マタイ 1 : 17

しかし、聖書を見て行けば分かるのですが、旧約聖書でこれらの約束が果たされることはありませんでした。

系図は、時代を 14 代ずつ、3 組に分けています。アブラハムからダビデまでの 14 代は、イスラエル王国の誕生でした。これは創世記 12 章から II サムエルに描かれています。まさに神様が、アブラハムを選び、子孫を増やし、強い王様ダビデを立てて、永遠に続く神様の王国を造られたように見えました。

しかし、次のバビロン移住までの 14 代は、特に不信仰が目立つ時代でした。これは I、II 列王記に描かれています。神様を信頼しない王様がほとんどで、国の信仰も偶像礼拝に向かって行きます。預言者からの度重なる警告も空しく、イスラエルはバビロン帝国によって滅ぼされてしまうのです。そして国民はバビロンに奴隷として連れて行かれるのです。この時、イスラエル王国はなくなり、ダビデの子孫が王になることは二度とありませんでした。

最後の 14 代は回復の時代でした。これはエズラ記、ネヘミヤ記、ハガイ、ゼカリヤ、マラキに描かれています。滅びて奴隷になった民を、神様が新しくペルシャ帝国を用いてイスラエルの地に帰還させてくださるのです。もはや国としての権力はありませんでしたが、神様はこの民を忘れていませんでした。

これらのことは、旧約聖書が何を言っているかということなのです。イスラエルの王はいなくなりました。しかし神様はまだ、「イスラエルの王の約束」はあると言うのです。

5 見よ。その日が来る。一主の御告げ—その日、わたしは、ダビデに一つの正しい若枝を起こす。彼は王となって治め、栄えて、この国に公義と正義を行う。

6 その日、ユダは救われ、イスラエルは安らかに住む。その王の名は、『主は私たちの正義』と呼ばれよう。

エレミヤ 23:5-6

わたしのしもべダビデが彼らの王となり、彼ら全体のただひとりの牧者となる。彼らはわたしの定めに従って歩み、わたしのおきてを守り行う。

エゼキエル 37 : 24

アブラハムに約束された一人の「子孫」。ダビデに約束された「王」。その人物は「ダビデ」と表現されます。

実は、マタイの系図は 14, 14, 14 と区切られていますが、省かれている人物が何人かいます。この系図はわざと 14×3 になっているのです。

14 という数字は、「ダビデ」を表していると言われます。ヘブル語ではアルファベットが数字になっているのですが (A=1, B=2 のように)、ダビデのスペルを足すと 14 になるのです。

イエス様こそ、旧約聖書で約束されてきた「ダビデ」だということなのです。

③信仰と恵みの系図

3 ユダに、タマルによってパレスとザラが生まれ、パレスにエスロンが生まれ、エスロンにアラムが生まれ、

4 アラムにアミナダブが生まれ、アミナダブにナアソンが生まれ、ナアソンにサルモンが生まれ、

5 サルモンに、ラハブによってボアズが生まれ、ボアズに、ルツによってオベデが生まれ、オベデにエッサイが生まれ、

6 エッサイにダビデ王が生まれた。ダビデに、ウリヤの妻によってソロモンが生まれ、
マタイ 1 : 3-6

聖書を読んでいくなれば、思うわけです。不信仰によって国が減んだような人々に、神様はどうして「永遠の王を与える」ことなんてできるのか、と。このマタイの系図は、いわば王イエス様の系図です。神様は、どのようにして王様を与えられたのでしょうか。

普通は、系図に女性が出てくることはほとんどありません。しかしここでは、4名の女性の名前が出てきます。

タマルは、創世記 38 章に登場します。ユダの子を産みますが、タマルは妻ではなく嫁の立場でした。タマルの夫が不信仰のために神様に殺され、ユダが「これ以上タマルに夫を与えたくない」と考えました。神様はその時代、やもめは夫の兄弟がめとるようにと言われていました。ユダは、息子の不信仰が怖くて、タマルを独り身に追いやったのです。しかしタマルは、遊女のふりをして、つまりだましてユダとの間に子を設けるのです。不倫の子供がその息子なのです。

ラハブは、ヨシュア記の 2 章と 6 章に登場します。もともとイスラエル民族ではありませんでした。エジプトを脱出してきたイスラエルに滅ぼされるはずのカナン人でした。しかしラハブは信仰によって、イスラエルのスパイをかくまったのです。それは神様を信じていたからです。このことによって、ラハブとその家族だけが助かり、ラハブはイスラエルの中に入れられたのです。イスラエルは血統を大事にする民族でしたから、系図に異民族のことがわざわざ書いてあるのは驚きの事実でした。

ルツは、ルツ記の中心人物です。モアブ人という、イスラエルの礼拝に加わってはならない忌み嫌われた出自でした。しかし神様を信じており、自分がつらい目に遭うと分かっている、自分の国に帰るのではなくイスラエルの中に留まったのです。

ウリヤの妻は、**バテ・シェバ**という名前で、Ⅱサムエルの 11-12 章に登場します。ダビデの子供を生みますが、わざわざウリヤの妻と書いてあるように、本当はダビデの妻ではありませんでした。ダビデは、バテ・シェバが美しかったので、夫ウリヤが戦争に行っている間に無理やり関係を持ってしまうのです。そして、子供ができたと分かると、隠ぺいするためにウリヤをわざと戦場の最前線に送り出して、殺してしまうのです。ダビデの、おそらく最大の罪です。しかし、ダビデは悔い改めたので、最初の子は流産しましたが、二番目にソロモンが生まれ、次の王になるのです。

この系図が表していることは、人がすることはいつも悪であったということです。しかし神様は恵みに値しない人を選んで、約束をくださったということです。ダビデは良い例で、彼は姦淫と計画殺人を行った人物でしたが、神様は彼を王として選び、彼の子孫から永遠の王が出る約束してくださったのです。

この系図は恵みの系図です。王であるイエス様は、罪を犯さない立派な信仰者から来られたものではありません。罪深く、滅ぼされて当然の人間を憐み、イエス様の系図に入れてくださったのです。

系図に入れられた人は、なぜ入れられたのでしょうか。立派だからではありません。ただ、神様を信じ、へりくだって悔い改めたからです。ただ神様が素晴らしいのです。

これから少しずつ、イエス様の姿を見ていきます。今日わかるのは、神様は赦しと恵みの歴史の中にイエス様を下さったということです。

私たちがイエス様や神様に抱いているイメージは何でしょうか。間違っただけをさばき、立派な者を救われる方でしょうか。いいえ。そのような方法で、神様は王になられません。どんなに間違っただけでも、神を信じ悔い改めた者を赦し、救いようのない者を救われる方です。

イエス様は、このような世界の王として生まれたのです。

今、神様のあわれみが必要なことはありますか。神様は、どうしようもない者を憐れんでくださるのです。また、神様の赦しが必要なことはありますか。神様は、悔い改めた者のところにイエス様を送られるのです。